

特別委員会報告

委員長 西本 有逸

特別委員会は「附属学校改革の現在地から見える課題」をテーマとして、第9回「これからの附属学校のあり方を考える協議会」を開催しました。以下、次第と事後アンケートの集計結果を報告し、全体を総括します。

1 日時 令和7年11月15日(土) 13:00～16:30

2 場所 東京学芸大学キャンパス(対面実施)

3 共催 日本教育大学協会 全国国立大学附属学校連盟

4 後援 (一社)全国国立大学附属学校PTA連合会

5 協力 文部科学省

6 内容

(1)開会挨拶 日本教育大学協会長(東京学芸大学長) 國分充氏

(2)来賓挨拶 (一社)全国国立大学附属学校PTA連合会会長 宮本昌尚氏

(3)基調講演 「いじめの重大事態の未然防止と組織的対応の実践」

関西外国語大学教授・文部科学省いじめ防止対策協議会座長 新井 肇 氏

(4)分科会

①働き方改革(勤務時間管理など)と学校行事・部活動

②いじめ・SNS・不登校問題等

③地域貢献・地域連携・モデル校

④ICT・AIの活用

⑤附属学校教員の育成・人事交流と教

育実習

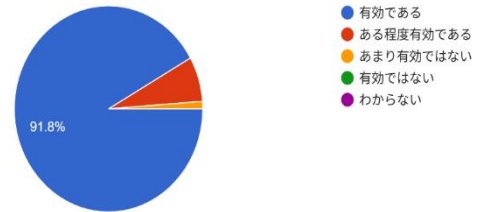
⑥寄付金・後援会費の運用方法

(5)講評 文部科学省高等教育局専門教育課教員養成企画室長 若林 徹 氏

(6)閉会挨拶 全国国立大学附属学校連盟 理事長 関 口 睦 氏

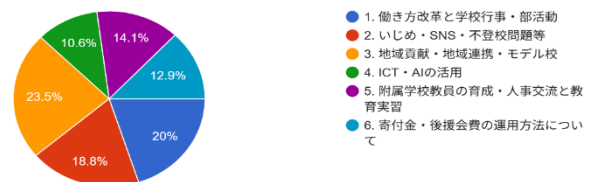
7 事後アンケートの集計結果 (n=85)

1. 基調講演は、これからの附属学校のあり方を考えるのに有効でしたか？
85件の回答

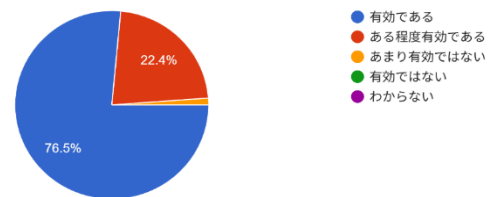


◎基調講演は附属学校園のあり方を考えるために有効な設定であった(肯定的回答98.9%)。

2. ご参加の分科会をお選びください。
85件の回答



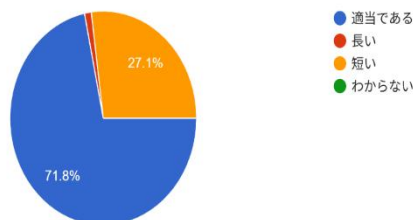
3. 分科会は、これからの附属学校のあり方を考えるのに有効でしたか？
85件の回答



◎分科会の開催およびテーマは附属学校園

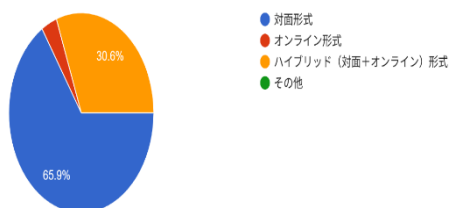
のあり方を考えるために有効な設定であった(肯定的回答 98.9%)。

4. 開催時間(今回3時間30分)は、いかがでしたか?
85件の回答



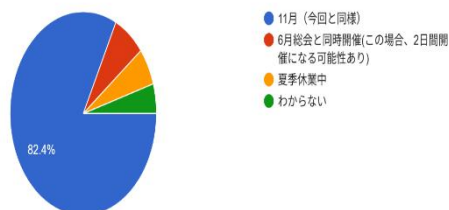
◎今回は土曜日開催であり、3時間30分の開催時間はおおむね適当であったと考えられる。

5. 次回開催するとしたら、どのような開催形式が良いですか?
85件の回答



◎対面形式(今回の形式)は65.9%、対面+オンラインのハイブリッド形式は30.6%であり、両者を合わせると96.5%であった。オンラインのみの形式は3.5%であった。

6. 開催時期はいつが良いですか?
85件の回答



◎11月(今回と同様)の回答が最も多く82.4%、6月総会と同時開催は7.1%、夏季休業中は5.9%であった。

《総括》

基調講演は実務に直結し非常に参考になったとの評価が多く、児童生徒理解は重要であり子どもが(いじめに関して)「大丈夫です」と言っても、もう一步踏み込んで言葉にならない言葉を聴こうとする教員・保護者側の姿勢と「学校いじめ防止基本方針」を毎年見直し、全教職員でいじめ問題に取り組む契機とすることを確認した。

分科会については、他校の課題や実践を共有でき、多角的な視点から深い議論ができて良かった等の意見が多い一方、70分では短い、他の分科会の内容も共有したいとの意見があった。

本協議会は全国の附属学校園が共通の課題や実践を共有し、相互理解と連携を深める貴重な機会となった。参加者からは「大変有意義であった」「他校の取組を直接知ることができた」「対面での交流が特に良かった」などの肯定的な声が多く寄せられた。また、今後も継続して参加したいという意見も多くみられた。改善の提案としては、分科会の時間延長(30分~1時間程度)・他分科会の内容共有(議事録・要約資料)・テーマの細分化と選択幅の拡大・対面による交流と対話時間の拡充が挙げられたことを次年度に申し送ることといたします。